



「写真：日本理化学硝子躍動百五十年史」
木下義夫著 提供

柴田弘製作所カタログ
「ヒロム印硝子濾過器」表紙

- 1921年 10月 東京・神田須田町に柴田弘製作所を創立。理化学用硝子器具の製造・販売を開始する。
- 1940年 8月 台東区上野花園町に工場及びガラスつぼ炉建設。ガラス熔融の研究に着手。
- 1947年 3月 ヒロム印ビーカー、フラスコ、シャーレ、冷却器製造開始。
- 1949年 8月 多年の研究が実り「ハリオガラス」の熔融に成功。
- 1951年 5月 東京都江東区白河に硝子熔融炉を設備。一貫作業の深川工場を新設。
- 1955年 6月 新工場に業界初の硬質1級ガラス「ハリオガラス」用タンク炉完成。
- 1957年 11月 深川工場分離。柴田ハリオ硝子株式会社を設立。
- S7型サイフォン発売。**
- 1961年 9月 JIS表示許可工場（化学分析ガラス器具・ガラス管棒）認定。
- 1962年 2月 ハリオビル落成。
- 5月 業界初の自動ガラス管成形機を設置。
- 1963年 12月 業界初の自動吹成形機を設置。
- 1964年 4月 耐熱ガラス食器販売部門を分離独立、「ハリオ株式会社」(旧・ハリオ商事株式会社)を設立。
- 1965年 4月 「フリーザーポットの一号型」発売。サイフォンとともに主力製品となる。
- 1968年 1月 硬質1級「ハリオ-32ガラス」開発に成功、量産に入る。
- 4月 茨城県古河市諸川1371に土地27,000㎡取得。古河工場建設準備に入る。
- 1969年 4月 **耐熱ガラス製保存容器初代「サイクルウェア」発売。**
- 1971年 1月 古河工場完成。
- 3月 古河工場本格稼働、生産開始。
- 10月 創立50周年記念行事と併せ、古河工場落成披露。
- 1972年 12月 独自の技術により「直接通電式ガラス熔融炉」の開発に成功。同設備による本格生産に入る。
- * 1977年2月/日本発明大賞受賞
* 1983年3月/科学技術庁長官賞受賞
- 1979年 9月 **「ハリオール」発売。**
- 1980年 8月 自動車用ヘッドレンズ分野に進出。
- 1983年 6月 本社を東京都中央区日本橋に移転、資本金4,000万円に増資。
- 10月 古河工場に世界初のコンピュータ制御によるガラス製品の多種少量生産ラインを完成。本格生産に入る。
- 1985年 10月 古河工場を分離独立させ、「シバタガラス株式会社」を設立、資本金3億円。
- 1987年 9月 ハリオ株式会社、資本金1億円に増資。
- 1988年 1月 **ガラスの急須「茶茶」発売。**
- 1993年 8月 中国・沈陽玻璃儀器廠へのプラント完成。ハリオ株式会社、発祥の地東京都江東区白河に移転。
- 1997年 1月 資本金4億円に増資。
- 1999年 4月 ハリオ株式会社、シバタガラス株式会社と合併。「ハリオガラス株式会社」設立、資本金4億5千万円に増資。
- 9月 ハリオロジテム（ハリオ物流センター）設立。
- 2000年 12月 古河工場、ISO9001 認定工場となる。
- 創業80周年記念事業の一環として、本社を東京都中央区日本橋富沢町9-3に移転。
- 2001年 1月 **ガラスの急須「茶茶急須」発売。**
- 11月 古河工場、ISO14001 認定工場となる。
- 2003年 2月 古河工場、OHSAS18001 認定工場となる。
- 7月 日本橋本社ビル登録有形文化財として文化庁より「貴重な国民的財産」に認定される。(登録番号13-0148)
- 12月 **世界初、ガラスのバイオリンの製作に成功。**
- 2004年 11月 ガラスのチェロ・ピオラ製作。
- 2005年 10月 **「V60 透過ドリッパー」発売。**
- 2006年 4月 ハリオテック株式会社（旧シバソン）設立。
- 10月 ハリオ物流センター 新社屋完成。
- 11月 **世界最大、ガラスの琴の製作に成功。**
- 2007年 11月 ガラスの尺八の製作に成功。
- 2008年 11月 **世界初、「ガラスのコーンスピーカー『ほりおん』」の製作に成功。**



ヒロムブランド
耐熱トースター



S7型サイフォン



フリーザー /1FP



初代サイクルウェア



ハリオール



茶茶



茶茶急須



V60 透過ドリッパー